

世界市場と資本主義；実証と理論の諸関連について

『国際循環的成長の研究』第1章と第3章より

- ・「経済循環」（相互依存・循環）と「景気循環」の合成
- ・「成長」と「発展」の相違＝「成長」は死の過程を含む概念
- ・社会主義経済計算論争の意義と限界＝ミーゼス+ハイエク VS ランゲ+ラーナー
 - 統計学論争との関連（別添えの添付ファイル参照）
- ・冷戦の地理的狭間＝戦後の国際政治力学上の制約を超えて
 - 政治的対立を乗り越えた、普遍的な経済学理論の形成を図れないのかという問題意識

+++++

第1章 長期景気循環の世界的動態

第1節 数量的＝計量的分析の射程と範疇

- ・中国台頭をどう捉えるのか&インフォーマル部門の解釈

第2節 国際経済成長の概観

1. 1830～1960年までの景気循環＝ミッチェルの統計整備の制約で年代を区切る
 - ・総データ数と分析ツール
 - ・デルタ/イプシロン分析による「クズネッツ循環」の抽出
2. 欧州19か国における動態
 - ・平均16.3年
3. アジア・アフリカ18か国の動態
 - ・平均24年
4. 南北アメリカ・オセアニア25か国の動態
 - ・平均26年
5. 三地域「平均値循環」の景気循環
 - ・欧州と南北アメリカの連動 ・アジアの独自性
6. 「回復・後退」の相対速度指数比較
 - ・人口増加率の高い国、時期の変動が大きい
7. 1960年以後の世界122か国の景気循環
 - ・1958、67、73、79、86年のリセッション→6～7年周期

第3章 全球経済の位相とその展開

第1節 世界市場資本主義とアジア諸国；90年代の課題

1. 歴史的激動の開始 天安門事件／東西ドイツ統合／朝鮮半島 7,000万人
2. 朝鮮半島情勢に関して
 - ・南北朝鮮のGNP比較 (p.71)
3. 経済開発の比較
 - ・台湾とキューバの比較→世界システム分析による比較研究
(Manjur E. Karim,1990=カンザス州立大学)
4. 求められる新秩序
5. 計画経済からの自由
6. 20世紀末から21世紀へ

第2節 有限封鎖系の全球経済社会

1. 全球経済社会の基本系
 - 第1期 1830-1862=32年 第2期 1862-1915=53年
 - 第3期 1915-53=38年 第4期 1953-93=40年
 - ・180年の有史以来の超長期循環
 - *資源制約 (p.80) →何れやってくる全地球的規模の資源制約
2. 全球的枠組み
3. 20世紀と21世紀の景気循環
4. 産業構造の転換

第3節 国際構造の変動要因

1. 中国の景気循環
 - ・7年周期の循環 (p.97) →5カ年計画なのに
2. 国家統一による研究対象の変化
3. 封鎖経済国の事例
4. 数量分析の意義と限界
5. 工業化政策とそのタイプ→新古典派との関係、輸出志向、自由貿易
6. 市場経済とその政策的課題
7. 学説的課題
8. 全球経済体制の構築

+++++

《社会科学上の諸問題》

(1)ミクロ・マクロ経済学で解けない命題群=誰が・どの分野で解くのか？

- ・ 現在および近未来の政策課題

(2)安全保障関連問題について

- ・ 基地問題：北方領土・日米安保問題→軍事問題のみで国際交渉は出来ない
- ・ 憲法問題＝戦後体制に関わる広範囲な問題群
- ・ 対中国大陸国家との関係
- ・ アメリカの相対的衰退→大国の興亡・文明と国家の組織原理（変えられない原理）
- ・ 社会主義の命運＝1930年代の救いの教義か？
 - ・ スターリン主義の消滅へ／現実的制約 ・ パルヴスのヨーロッパ合衆国論
 - 修正社会主義論から修正資本主義論へ

(3)地球規模の大問題に対応する研究体制の構築

- ・ 人口爆発の抑制とエネルギー枯渇問題
- ・ 学界状況→留学先・宗主国崇拜の理論とその制約要因

＊＊ 統計データ解析による「世界経済構造分析プロジェクト」の提案

- ・ 20歳代の若手研究者を募りたい！